

1 日目

- 1) **富山城・富山市郷土博物館** 〒930-0081 富山市本丸1-62 富山城址公園内
(電) 076-432-7911

昭和29年戦災復興事業の完了を機に富山城址一帯で、富山産業大博覧会が開催された際記念の恒久建築物として、富山城天守閣が建設された。博覧会終了後は、郷土の歴史・文化を紹介する博物館として運営してきたが、平成15年から約2年半をかけて耐震改修工事とディスプレイ整備をお行い、新たに富山城の歴史を紹介する博物館としてリニューアルオープン。平成16年国の登録文化財に登録。

戦国時代に築城されてから明治以降の城址の変遷に至るまで、400年以上に亘る富山城の歴史を紹介。富山城ものがたり導入として、富山城研究の現代・中世の富山城・近世の富山城・近現代の富山城址の4区分に展示されている。前田利長使用の140cmの兜は必見。

- 2) **安田善次郎記念室** 〒930-0007 富山市宝町1-3-10 明治安田生命ビル2階
(電) 076-432-2471

安田善次郎の生涯とその業績を遺産やパネルで解り易く展示している。

20日は休日ですが、営業開室して下さる事になっています。

- 3) **安田善次郎生家跡・安田記念公園** 富山市愛宕町1

生家の跡地は昭和14年安田家から富山市へ寄付。高橋是清の揮毫の碑がある。

- 4) **呉羽山売薬資料館** 〒930-0881 富山市安養坊980 (電) 076-433-2866

富山市呉羽丘陵の民族民芸村の中にある。300余年の歴史を持つ「富山売薬」の資料を保持、活用する為に昭和59年(1984)に開館。行商に用いた用具、製薬に用いた用具等も展示されている。収蔵資料の内846点は「富山売薬資料」として、国重要有形民族文化財に指定。

本館から渡り廊下で繋がる別館は、旧密田家土蔵で、富山を代表する売薬商家であった密田家から資料と共に寄付された。

- 5) **曹洞宗長慶寺・五百羅漢** 〒 富山市五艘1882
(電) 076-441-5451

もともとは新川郡塩野に所在した真言宗寺院。天明6年(1786)日輪禅師により曹洞宗の寺院として開山。河上屋市郎左衛門の勧請により現在地に移る。本尊は「桜谷大仏」と呼ばれる大仏だったが、明治3年(1870)頃廃仏毀釈の折に富山藩の命で失われ、現在は仏頭のみ鎮座する状態。

五百羅漢は、江戸時代後期、越中商人回船問屋の黒牧善次郎の呼びかけによって、佐渡国石工に535体の羅漢像を刻ませ寄進した。寛政11年(1799)～嘉永2年(1849)まで50年間要した。羅漢像は東向きに難壇状に座しており石灯籠をはさみながら整然と並んでいる。

- 6) **長岡御廟曹洞宗真国寺・富山藩墓所** 〒930-0112 富山市八ヶ山4185
(電) 076-431-4057

本尊は脱乾漆像の釈迦如来像、12C後半～13C前半頃の作。

延宝3年(1675)富山藩主前田公の廟所“長岡御廟”の守り役として建立。

延宝2年(1674)反魂丹で有名な越中売薬の始祖、富山藩2代藩主前田正甫が父の初代藩主利次の霊をここに吊ったのが始まり。富山藩は明治維新まで13代、221年間に亘って続いた。

廟所には、初代利次公の墓を囲むようにして、正甫、利興、利隆、利幸、利興、利久、利謙、利幹、

利保、利友、利聲の12人の藩主、子供や側室ら一族の墓が次々と造られた。

藩主の埋葬の都度、家老や藩の重役達が墓の周りに奉納した石灯籠約600基。鳥居がある。

御廟入り口門正面が初代藩主利次の墓所。3万5千平方メートルの広い廟所の森は今は公園墓地。

- 7) 宿泊地 財団法人富山勤労総合福祉センター呉羽ハイツ 〒930-0142 富山市吉作4103-1
(電) 076-436-0191

城山山頂近くに建ち眼下には富山平野、富山湾、能登半島が一望出来、自然に恵まれた公的宿泊施設。

2 日目

- 8) 曹洞宗繁久寺 〒 高岡市芳野89 (電) 0766-23-3196 (月) 休み

前田利長公墓所の南に廟所として造営された。

永禄5年(1562)現在の氷見市飯久保(いいくぼ)に創建された「飯久寺」が利常の招きにより利長墓所の守り寺として造営されたもので、代々墓所の護持を担ってきた。

創建当時の建物は安政6年(1859)に全焼し、現在の建物は文久2年(1862)に創建当時のままに再建されたものとされる。境内の回廊には五百羅漢が安置されている。

- 9) 前田利長公墓所 国指定史跡 高岡市大野

加賀藩3代目藩主前田利常が、兄利長の33回忌に当たる正保3年(1646)に火葬に付した後御廟を造営。今も水濠をめぐらしている。

墓は加賀の戸室石で三重の基壇を組み、基壇の正面には12段の石段があり、基壇の上に花崗岩の笠付き墓標が立っている。基壇の周囲の格狭間には、狩野探幽(1602~74)の下絵になると伝わる蓮花図が刻まれている。墓頭迄の高さ11,75m。戦国武将の墓の中では最大級といわれる。

- 10) 八丁道 瑞龍寺と前田利長公墓所を東西に結ぶ参道。長さ約8丁(870m)

114基の石灯籠(戸室石)が並び松並木と白い石畳が続いている。

- 11) 曹洞宗高岡山瑞龍寺 〒933-0863 高岡市関本町35 (電) 0766-22-0179

加賀藩2代藩主前田利長公の菩提を弔う為3代藩主利常公が建立。

利長公は高岡に築城し、この地で没。加賀百万石を譲られた異母弟の利常は深くその恩を感じ、時の名匠山上善右衛門嘉広をして七堂伽藍を完備し、広山恕陽禅師をもって開山とした。

造営は正保年間から利長公の50回忌の寛文3年(1663)までの約20年の歳月を要した。当時、寺城は3万6千坪、周囲に壕をめぐらし、まさに城郭を思わせるものがあつた。

平成9年12月3日、山門、仏殿、法堂が国宝に指定された。また、総門、禅堂、大庫(裡)裏、回廊、大茶堂が国の重要文化財に指定された。

江戸初期の禅宗寺院建築として高く評価されている。

- 12) 鳳徳山 大仏寺高岡大仏 高岡市大手町11-29 (電) 0766-23-9156

日本3大仏の1つで高岡工人によって造られた。初代は木製だったが、2度の火災で焼失。その経験から高岡銅器の技術を集めて造りなおされ青銅製となった。

総高15,58m、重量65tある。顔立ちのいいことでは日本一の大仏様といわれている。

台座内部は回廊になっていて、13枚の仏画が展示されている。

- 1 3) **高岡古城公園** 日本有数の水濠公園。日本100名城。さくら名所100選
日本の歴史公園100選。日本の都市公園100選

市街地の中心部に広がる桜の名所・古城公園は今から400年前に加賀藩2代藩主前田利長が築いた高岡城の跡。慶長3年(1598)利家公の後を継いで藩主となった利長は同10年(1605)隠居して富山城に移るが、同14年(1609)の大火で消失したため、高岡城をつくる。入城して5年利長公は亡くなり、元和元年(1615)の一国一城令により廃城となった。

しかし城跡は残り、町民から「古御城」として親しまれた。明治になり民間に払い下げられ、城跡が消失しそうになったが、服部嘉十郎らが公園指定の請願書を提出し保存運動を展開。市民の力により城跡は高岡古城公園として今に受け継がれている。

この公園の特徴は、中心市街地に約21万平方メートル(約7万坪)という広大な面積で、3つの水濠に囲まれていて、全体の3分の1の面積を占める。

城は残っていないが、加賀藩は城の実質的な保全を図った為濠や石垣は殆ど築城時のまま残っている。築城時の濠が完全な形で残っている高岡城跡は江戸城(今の皇居)、弘前城に並ぶ貴重な存在。

園内には、藩主前田利長や、城を設計した高山右近の銅像などが建っている。

「高岡万葉まつり」のメイン会場になっている。

- 1 4) **高岡市万葉歴史館** 〒933-0116 高岡市伏木一宮1-11-11
(電) 0766-44-5511

「万葉集」の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1260年前、越中国守として高岡の地に5年間在任した。その間、「万葉集」全巻の収載歌約4500首のうち、家持によって越中で詠まれた歌は220余首であり、さらにゆかりのある歌を加えれば337首にもものぼる。この地の美しい風物を詩情豊かに詠んだこれらの歌は“越中万葉”として今尚光彩を放っている。高岡が奈良、飛鳥と並び万葉の故地と言われる由縁である。

この歴史館は、家持が居た国庁跡近くの伏木一宮に建てられ、全国初の万葉集に関する専門施設として、展示、出版、教育普及などの諸活動をして機能を果している。

- 1 5) **雨晴海岸** 高岡市北部の海岸、能登半島国定公園に含まれ、日本渚百選に選ばれている。

晴れた日には富山湾越しに立山連峰3000m級の山々の眺望、元日の日の出など景勝地として人気。

雨晴駅近くには、義経伝説の残る義経岩がある。JR氷見線の越中国分～雨晴間は海岸線の直ぐ横を通る為、車窓からの眺めも良く鉄道ファンにも人気があり、青春18切符の販促ポスターに採用されている。

- 1 6) **氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館** 氷見市中央町7-1 (電) 0766-74-7051

氷見漁港内にある道の駅で、朝水揚げされたばかりの鮮度抜群の魚介を市価よりも手ごろな値段で販売する鮮魚コーナーが人気。氷見うどんや鱒寿司など氷見や富山の特産品も揃えていて土産選びにも便利。

- 1 7) **散居村展望台** 鉢伏山に山頂 砺波市五谷鉢布施2-3 (電) 0763-33-1111

散居村とは、平野に住居が点在する農村形態のこと。分散した家屋と田圃の織り成す風景。砺波平野は国内で最も典型的な散居村といわれる。標高500m程の展望台からは平野を一望。朝霧、夕暮れの景観、田植え時、稲穂がたれる収穫期の風景など時間や季節により多彩な表情を見る

事ができる。代播きの時季は一段と幻想的。

18) **道の駅・庄川** 砺波市庄川町示野437 北陸自動車道砺波ICから約7km
庄川特産のゆずを使った土産がずらり・・・

19) **棟方志功記念館・愛染苑** 〒939-1654 南砺市福光1026-4
(電&ファックス) 0763-52-5815

「愛染苑」は旧棟方住居の呼称だった。

棟方志功(1903～1975)が福光に疎開していた6年8ヶ月の間に制作した作品を主に展示。

愛染苑庭園内に谷崎潤一郎文学碑「愛染韻」(昭和26年霜月17日建立)がある。

鯉雨画斎 アトリエ名だったが、今は旧棟方住居の呼称としている。

アトリエの板戸には鯉や鯰などが描かれ、厠には天女や菩薩が描かれている。

青花堂 棟方が与えた石崎俊彦の堂号だったが、現在は民藝館の呼称。平成16年開館。

(文責 井上若子)